

国語

国語科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
話や文章の内容や構成などを理解するため、語句理解の量を増し、情報を正しく読み取ること。	文章などの中の重要な言葉や文などを考えて選び出したり、必要な情報を見付けたりして、論理的に思考する力や想像する力を身に付け、言葉で表現すること。

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> 助詞や促音・拗音を正しく書くことに課題がある。ア 言葉や文章の意味を正しく捉えることが難しい。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の音読や、視写・練習問題への取り組みを通して、正しく書く力を養う。ア 文章に印を付けたりサイドラインを引いたりすることで、大切な言葉に注目させる。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 毎単元 毎単元 	<ul style="list-style-type: none"> 国語や他教科などで、積極的に書く活動を取り入れることにより、正しく表記できるようになった。 大切な文や言葉に注目する力は伸びているが、文章の意味を正しく捉える力は、個人差が大きく、課題が残る。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> 促音や助詞の使い方、カタカナの定着が不十分で、文を正しく書くことが難しい。ア 文章から場面の様子を想像することが難しく、登場人物の気持ちを読み取ることに課題がある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 単元の学習終了後も、日常的な課題として繰り返し指導を行う。ア 場面ごとに細かく内容を整理し、重要な言葉や文章にラインを引き、言葉を捉える力を身に付けさせる。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 毎単元 毎単元 	<ul style="list-style-type: none"> 文字や文章を多く書くことはできるようになったが、促音や助詞など文法の定着は個人差が大きく課題が残る。 文章から場面の様子の読み取りなどはできるようになったが、文章に記載されていない部分での気持ちの読み取りについては、個人差が大きく、課題が残る。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 読み手にとって読みやすい、主語、述語を意識した文章を書くことに課題がある。ア 語彙の意味を理解することに課題がある。ア 内容のまとまりで段落を作り、文章をまとめていくことに課題がある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 語彙の意味を口頭や絵等で説明することで、理解を深めさせる。ア 学習感想で、主語、述語や内容のまとまりを意識して文章を書けるように書き方の例を示す。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月、単元末 常時 	<ul style="list-style-type: none"> 国語の文章を書く単元では、短文を意識して書く中で、主語と述語のつながりを確認しながら、文章を書くことできた。 文章の構成を意識して物語作りを行った。段落で初め・中・終わりのまとまりを書かせたことで、文章構成について理解することができた。
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> 漢字や慣用句等の語彙が少ない。ア 文章を書くことへの苦手意識が強く、自由記述問題に対し単語で解答する児童が多い。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 単元の導入では、文章中の難意語を国語辞典で調べさせる。ア 授業の終わりに振り返りなどの短い文を書くことを繰り返し、書くことに慣れさせる。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 単元の導入、常時 毎単元 	<ul style="list-style-type: none"> 国語辞典で調べることにより、調べたい言葉だけでなく、その前後の言葉も学ぶことができた。しかし、時間の確保が難しく、毎回行うことができなかった。 学習感想を書くことには慣れてきた児

				童がいる一方、取り組むことができずに書くことに対して抵抗感が強くなった児童もいた。
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> 主語、述語、修飾語が的確に捉えられない。また、文章構成についての理解に課題がある児童が多い。ア 自分の考えや思いを表出することに苦手意識をもっている。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 単元のとめや振り返りなどを文章に書き表す機会を多く設定し、書くことへの抵抗を軽減できるようにする。ア 教科書巻末の「言葉のたからばこ」を活用し、語彙を増やすとともに、表現する機会をもてるようにする。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月 ・毎単元 	<ul style="list-style-type: none"> ・短い文で書く際には、正しい構成で書くことができる。長文での文章構成や文と文のつながりは、まだ理解が難しい児童がいる。 ・ロイロノートを活用することで表現することに対する苦手意識が少なくなり、自分の考えを書くことができるようになった。
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> 熟語の意味を理解したり、漢字を正しく書いたりすることに課題がある。ア 複数の資料から正しい情報を選択し、活用することに課題が見られる。イ 正しい情報を使って決められた文字数の中で自分の考えを表すことに課題がある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 文中で既習の漢字を正しく用いることができるように、作文の中で使えるようにする。漢字ドリルや小テストで繰り返し練習する。ア 複数の資料から、読み取る学習を授業の中に組み込む。時間の授業の中に子供が思考する過程を意図的に組み込む。イ 決められた字数の中で自分の考えや意見を書く学習活動を積極的に取り入れる。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月 ・毎月 ・毎単元 	<ul style="list-style-type: none"> ・前期に比べ、小テストの平均点が上がった。短文作りなども行い、語彙を増やし、使い方を覚えてきている。 ・他教科でも2つ以上の資料を使った学習を組み込み、正しい資料を選択し、考えをもてるようになってきた。 ・卒業文集の取組と合わせ、決められた文字数の中で、文章の構成や文どうしのつながりを考えて文章を書くことができるようになった。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
<p>1・2年 大型提示機やタブレット端末を活用して課題や板書などを見やすくすることで、学習理解のための視覚的な援助とする。【重点:個別】</p> <p>3・4年 語彙力を高めるために、タブレット端末の活用し実物の画像や言葉の意味などを検索する。自分の考えや言葉の意味などを、ロイロノートを用いてグループで検討する。 【重点:個別・協働】</p> <p>5・6年 タブレット端末を使用し、自ら情報や資料を集め、必要かつ適切な情報を選択する授業を行う。【重点:個別】</p>	<p>1年 ワークシートをファイリングする。推敲の際の音読を活用する。</p> <p>2年 活動ごとのめあての確認 様々な音読の仕方の練習を通して意味理解を深める。</p> <p>3年 学習の振り返りを習慣化し、身に付けることで学んだことを次の学習で生かせるようにする。</p> <p>4年 授業の終わりに振り返る時間を取る。また、文章でノートに記録しておく。</p> <p>5年 学習の振り返りを習慣化し、身に付けることで、学んだことを次の学習で活かせるようにする。</p> <p>6年 学習の振り返りを習慣化し、身に付けることで、学んだことを次の学習で活かせるようにする。</p>

